



SHALOM-NETWORK

発行：NPO 法人シャローム事務局

〒960-1241 福島県福島市松川町字東原 17-3
TEL 024-529-6901 (ベーシック圏内)

Web <https://www.nposhalom.net>
FAX 024-529-6902 (ベーシック圏内)

発行責任者：大竹静子

「2026年ひまわりプロジェクト」が始まりました

二〇二六年度のひまわり栽培協力者募集が始まりました。昨年までの協力者様へは、メールか郵便で「二〇二六年栽培協力者様募集のお知らせ」が発信・発送されています。また、ホームページには、趣意書・参加申込書とともにお知らせが掲載されています。

夏の暑さもあり、種蒔きの時期もだんだん早くなってきているとも言われます。準備した予定数量に達し次第、種の配布は終了になりますので、早めのお申込をお願いいたします。

福島原発事故から十五年が経過し、「ひまわりプロジェクト」も十四年目を迎えます。事故から十五年を経過した現在、日本の国のエネルギー政策は、原発再稼働を加速させようとしています。事故当時の記憶は薄れ、電気の需要増加に伴う電気不足への不安から、事故さえ起こさなければ原発もやむを得ないとの空気が漂い、原発回帰を容認しているように思います。

しかし、原発事故は、自然災害の津波とは違い、現代社会が創り出した人災であったことを改めて思い返し、再検

討・再評価し直すべき時期にきていると考えています。

「ひまわりプロジェクト」は、震災と原発事故の教訓として「人は一人では生きていけない。助け合い、支え合って生きていかなければ明日はない。」という事実を原点に、「共生社会」を目指す相互支援のネットワークとして進めてきました。

「人の命を守り合える社会」そのためには、誰もが、自分を大切に、家族が、地域が、国が、世界が助け合える人間関係を育てて行くことが肝要です。私たちは、ひまわりの一粒の種に寄り添い、ひまわりを育てることで、人の心に「共生社会」の芽が育まれていく姿をたくさん見てきました。

人は一人ひとり多くの問題を抱え、自分なりに悩んでいると思います。しかし、それを見ながら共有できれば解決できない問題はほとんどなくなり、人間社会が創りだしている問題は、人間関係の中に解決策も持っています。それを引き出していくところに「共生社会」はあると信じています。

「ひまわりプロジェクト」が、

ホームページから 栽培協力者の受付中

種がひまわりオイルになるまで

1~3月	ホームページ上での告知や全国の栽培協力者様のご紹介を通じてプロジェクト参加者を募集。
3月~	栽培協力者の方々にひまわりの種を発送。
4~6月	ひまわりの種まき。栽培協力者様が全国各地でひまわり栽培をスタート。
6~8月	ひまわりの開花・お花見。各地でイベント開催や撮影など、花を楽しんでいただく。
9~10月	種の収穫。シャロームへ種を返送していただいた種は福島県の製油所で搾油します。作業所での商品ラベリング、梱包作業を経てひまわり油「みんなの手」が完成。
11~12月	返送していただいた種は福島県の製油所で搾油します。作業所での商品ラベリング、梱包作業を経てひまわり油「みんなの手」が完成。



共生社会を目指すシンボル事業として未来に繋いでいくことを願って、今年から寄付の窓口を開設することとなりました。

詳細については、シャロームHPPの「ひまわりプロジェクト」特設サイト内に「ひまわりプロジェクト応援寄付」のお知らせを掲載しています。一口千円から何円でも可能で、手数料等もかからず、通年で利用可能です。(現在、寄付サイトの開設準備中)

今年も、ひまわり栽培協力者への応募とともに、プロジェクトへのご支援ご協力をよろしく願っています。
(シャローム代表 大竹静子)



春のつメモ帳

二月に入ると節分、そして立春を迎え、三寒四温を繰り返しながらも、春の息吹を感じさせる日差しが増してくる。冬至から思うと、いつの間にか、日の出の時間も随分と早くなってきた。吾妻山の山裾には、春を告げる種蒔きうさぎが見え隠れしている。厳しい寒さの中でも、春はそこまできています。

もうすぐ今年のひまわりプロジェクトも始まる。ひまわりが良く育つためには、ひまわりに合った肥沃な土づくりから。良い土には元気なひまわりが良く育つ。みんな育てると、ひまわりを囲んでみんなの輪ができる。みんなの手が増すと、ひまわりもそれに応えて大きな花を咲かせてくれる。

自然の営みが凝縮されたような、ひまわりと人、ひまわりを囲んでの人と人、一年をかけて繰り返される自然の営み。一年の積み重ねが新たな自然の営みを創っていく。

ひまわりの一粒の種が、人と人の間に優しい連鎖を創り、助け合いながら、春の日差しを感じつつ、今年も大輪の花を咲かせてくれる姿を思い描いている。
(T・O)

ひまわりプロジェクト 2026

始まりの季節

止めています。

◆環境の違い

日本には四季があるだけでなく、北の北海道は亜寒帯から冷帯で、夏は冷涼で冬は寒冷、南の沖縄・奄美は亜熱帯で、年間を通して温暖です。そのため、世界中の植物を育てることが可能です。

ひまわり、いんげん、ズッキーニ、菊芋は北アメリカ原産。キャベツアスパラガスカリフラワーなどはヨーロッパ原産。ほうれん草、しょうが、大根、玉ねぎ、人参、ニンニクなどは中央アジア西アジア原産。コンニャク、里芋、パジル、えごま、きゅうり、なす、などはインド熱帯アジア原産。あずき、だいず、しそ、ねぎ、はくさい、長いもなどは東アジア原産。オクラ、すいか、モロヘイヤなどはアフリカ原産。かぼちゃ、とうがらし、ピーマン、サツマイモ、などは熱帯アメリカ原産。いちご、トウモロコシ、トマト、ジャガイモなどは南アメリカ原産とヒックリするほど原産地が違います。

ちなみに日本原産は、わさび、わらび、みょうが、ふき、みずな、なめこ、ぜんまい、うぐいす、しいたけ、などです。これだけの種類の作物を育てることができる豊かな自然、環境に恵まれている国は少ないのではないのでしょうか。

◆植物の特性

植物をタネから育てていると、面白いなあと思うことがあり、それは、タネとタネを触れるぐらい近くに植えると、茎も葉も花も小さくなってしまふということ。まるで満員電車で気を使いなから生きていて、心が擦り切れてしまふ人間のように見えます。

もう一つは、根が近いことで、養分や水分の取り合いになったり、葉の重なりによって光合成がしづらくなったりすることで生育が悪くなります。

ひまわりプロジェクトで使用しているひまわりのタネは、背丈を越えて花も顔より大きな大輪の花になります。そのようなひまわりを想像していただけると、根はどのぐらいになれば倒れないだろうかと、どれぐらい葉っぱが大きくなって隣とぶつからない広さが必要かが見えてくると思っています。

◆何を食べているのか

ひまわりを育てていると、様々な虫たちが来ます。小さな時には根切り虫、葉が育つとクワンバイ虫やハダニ、種が出来てくるとカメムシなどが来ます。無農薬で油にするには大変な事だと思えますが、草花や虫たちを味方にすることもできるのです。

ひまわりプロジェクトを通して、自分が食べているものに何が入っているのかを考えると、かけになればと思っています。

(ひまわりPJ 後藤)

開催報告

生活クラブ様 ひまわり交流会



一月八日、生活クラブ様主催のZoom学習会で話す機会を頂き、生活クラブの役員さんとの意見交換もできました。三十分程度のミニ講演形式で、テーマは『共生社会』と生活クラブ、その講演内容を一部紹介します。

シャロームと生活クラブ様との交流は、十五年前の震災と原発事故の直後から始まっています。原発事故の県外支援者との交流事業として始まった「ひまわりプロジェクト」も社会状況の変化に対応する形で活動の内容を変えながら十三年間継続することができました。プロジェクトの支援団体である生活クラブ様との交流は現在まで続いています。

時間の経過の中で、震災と原発事故からの教訓として忘れてはならないものが明らかになってきたと考えています。三・一一から十年目を契機に行われた「ひまわり感謝祭」でのシンポジウムにおいて、「ひまわりプロジェクト」の役割は、「共生社会」を目指すシンボル事業であることが確認されました。

(シャロームが学んだ震災から

の三つの教訓

- (1) 福島県人は障がい者となった。
- (2) シャロームは「命」の重みを問われている。
- ..人は一人では生きられない。「命」を守るために、助け合い、支え合って生きていく。
- (3) 風評と障がい者差別の同質性。

この震災の教訓から、共生原理の重要性を再確認し、生活原理における「共生原理」と「競争原理」の存在が複雑に関わり合っている現実を知ることとなります。

この関係性を、私なりに整理してみたのが「共生社会への視座相関図」です。(共生社会への取り組みー未来への展望) (二〇三三・三三三二、七六六)参照

社会の多くの場面で競争原理に基づく経済活動が優先しており、この結果が原発事故を引き起こした遠因ともなったと考えると、この震災の教訓から共生原理が優先する社会を提示していくことの意義は大きいと考えています。

上記の「共生社会への視座相関図」に当てはめて見ると、現代社会の諸問題は「競争原理」至上主義に起因すると整理できます。これらを見直す視点として「共生原理」を位置づけると、「共生原理」も明らかになってきます。人の命を守り合う「共生原理」は、ひまわりプロジェクトや生活クラブの活動の原点となっています。

これからも、「共生社会」を目指して、ともに活動して行くことを確認し合いながら終了しました。

(シャローム福祉会 理事長 大竹隆)

ひまわり栽培のお申し込みはこちらから!



共生社会への視座 相関図

	地域(コミュニティ)	都市社会
生活原理	共生原理 支え合い、皆の利益	競争原理 自己責任、個人の利益
経済活動	共同体原理(協働)	市場原理(自由競争)
社会制度	福祉・共存・無償労働 制度外福祉	企業・自由・有償労働 制度福祉
政府	地方自治体 寄付・税	中央政府 税

教養講座 地元学をどう考える

第二百五十八回「地元学を考へる」
(二〇二六年一月十七日開催)

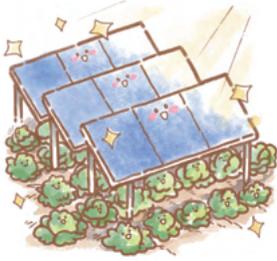
「キリスト教信仰とソーラーシェアリング事業」

講師 近藤恵氏

『ソーラーシェアリング』という言葉をご存知ですか？

小原浩靖監督の『陽なたのファーマーズ フクシマと希望』という映画に出演されている近藤恵さんが今回の地元学の講師でした。近藤さんは、山形県の基督教独立学園在学中に農業に関心をもち、二本松市の大内信一さんの元で有機農業の研修を始められました。その後、東日本大震災の原発事故による廃業という苦難の後、二本松の地で「ソーラーシェアリング」という新しい事業を展開してまいります。

不勉強な私は「ソーラーシェアリング」という言葉を今回の講座



希望に向かって少しずつでも前進してほしいと感じました。
(石高 敦子)

石高さんに感想文を寄稿していただきました。ありがとうございます。

地元学講座 オンライン配信

シエアリングの意味は、農作物とソーラーエネルギーのシエアリングということです。農作物の栽培に影響のないようにパネルを設置し、農地をシェアリングして農作物とソーラーエネルギーから収入が得られます。近藤さんは「新しい時代の兼業農家」と表現しています。この新しい農業のカタチをぜひ福島から広げてほしいと思います。

しかし、社会が新しいことを受け入れるのは簡単なことではありません。今回の地元学のテーマが「キリスト教信仰とソーラーシェアリング事業」で、なぜ宗教の信仰がエネルギー事業と関係しているのか、講話を聞くまではつながりませんでした。これまで近藤さんが取り組んだ道のりの困難さと、諦めない信念を支えてきたキリスト教信仰の重みを知り、納得することができました。

私たちは未知のものに対する不安や否定感をもってしまいがちですが、農産ソーラーが主力となり原子力災害が終結していくという



QRコードからも動画をご覧ください

URL

<https://www.youtube.com/@nposhalom>

YouTubeチャンネル名 NPO 法人シャローム

チャンネル登録がおまめ

チャンネル登録と動画更新通知をONにする、最新のアップロード動画が見やすくなります。

ひまわりプロジェクト 寄付のお願い

【寄付の窓口を開設いたします】

「プロジェクトを応援したい」「今は種まきできないけれど、何か力になりたい」そんな声にお応えするために、寄付というかたちでご参加いただける窓口を開設することになりました。(寄付の窓口は現在準備中です)

★寄付の窓口

・寄付金額：一〇千円(何口でも)支援いただけます。

・受付期間：通年

・返礼品：お礼のお手紙(郵送)、活動報告(年に数回)、メールにて

・寄付は「STORES(ストアーズ)」のページから簡単に行えます。

★寄付の目的

いただいたご寄付は活動の継続に欠かせない費用に大切に活用させていただきます。

・ひまわりの種の購入(毎年約二十万円)

・種や油の輸送費、包装資材

消耗品
・福祉事業所での作業資材の購入など

★なぜ「支援をお願いする」のか
「ひまわりプロジェクト」は東日本大震災・原発事故後の復興支援として二〇一二年に始まりました。全国で四百七十か所以上の皆様が栽培に協力してくださっています。

福島から全国へ種をお届けし、育てていただいたひまわりの種は再び福島へ。その種を製油所「協同精油」に持ち込み、昔ながらの製法でひまわり油「みんなの手」へと生まれ変わらせています。種磨きやラベル貼りなどは、福祉事業所「ベリック」の仲間たちの仕事として担われています。

私たちは震災を通じて「人は助け合わなければ生きていけない」ことを学びました。このプロジェクトを通じて、
・ひまわり栽培を通して命を大切に
・困ったときは支え合おう(気持ち)
・障がいの有無などの特性や地域を越えて人と人がつながることの大切さを、ひまわりとともに全国へ広げていきたいと思っています。

しかし今、
・気候変動や物価高騰により、種の収穫量が減少
・輸送費や資材費の高騰
・震災から時間が経つにつれ、協力者の減少も進んでいます。

それでも私たちは、多くの皆様が気軽に参加できるプロジェクトでありたいと願って、これからも変わらず、種は無償で提供し続けたいと考えています。だからこそ、皆様のお力が必要です。

共生社会をめざしてひまわりを育てることが、誰かの仕事になり、誰かの希望となり、社会をつなぐ力になる。そんな想いを、これからも皆さまと一緒に育んでいけたら幸いです。未来につながる共生社会を目指して、どうかあたたかいご支援をお願いいたします！

ひまわりプロジェクトの情報はここから

ひまわりPJウェブサイト

ひまわり通信

Instagram



ひまわりの育て方はここから 栽培の豆知識など更新中! 最新情報はここから!

活動のご報告

2025 年 12 月 26 日～2026 年 2 月 25 日

- 1 月 8 日 〈ひまわり〉生活クラブ生協連合会様 復興支援学習会 (Zoom)
- 1/9・1/23 リアン ピアカウンセリング 夢工房〈居場所〉ゆる〜っとホーム
- 1 月 10 日 リアン〈講座〉みんなの教室 第四回(市民センター)
- 1 月 15 日 憩〈販売〉共生社会ふくしま主催手作り市 (市民センター)
- 1 月 17 日 第 258 回 地元学講座 「キリスト教信仰とソーラーシェアリング事業」 近藤 恵氏 夢工房〈販売〉ヤクルト新年大会 (ウエディングエルティ)
- 2 月 3 日 〈会議〉福島地域福祉ネットワーク会議 (青葉学園)
- 2 月 5 日 楽膳〈講師〉けんぼく 6 次化ミーティング 交流会 (福島テルサ)
- 2 月 12 日 憩〈販売〉にじいろ day (福島市役所)
- 2 月 13 日 リアン ピアカウンセリング 夢工房〈居場所〉ゆる〜っとホーム
- 2/19～2/21 楽膳〈販売〉ふくしまものづくりマーケット (コラッセふくしま)
- 2 月 21 日 第 259 回 地元学講座 (みんなの教室 第 5 回) 「～精神障がいについて学ぼう～ 地域での暮らしについて」 相談支援センターリアン ピアサポーター他



活動予定

2026 年 2 月 26 日～3 月 25 日

- 2 月 26 日 憩〈販売〉にじいろ day (福島市役所)
- 2 月 27 日 〈ひまわり〉グリーンコープ連合会様 3・11 追悼集会開催 (福岡県) リアン ピアカウンセリング 夢工房〈居場所〉ゆる〜っとホーム
- 3 月 2 日 憩〈販売〉展示販売会 (福島市役所)
- 3 月 13 日 リアン ピアカウンセリング
- 3 月 14 日 NPO〈イベント〉健康体操&「土船カレーパン」試食会 (青葉学園)
- 3 月 15 日 憩〈販売〉共生社会ふくしま主催手作り市 (市民センター)



教養講座 地元学を学ぶ 第二百六十一回予告

「よそ者」から「地元民」へ
一学び、耕し、守り継ぐ福島の暮らし

〈講師〉

高野 優花さん
(優賢農園園主)

〈日時〉2026 年 4 月 25 日 (土) 13:30～15:00

〈場所〉まちなか夢工房 2 階

〈参加費〉500 円

〈講演内容〉

学業と共に始まった福島での日々。取り組まれている農業と暮らし、その活動や研究の内容などをお話しいたします。

〈講師紹介〉

千葉県出身。福島大学への進学を機に福島県へ移住。同大学院にて修士号を 2 つ (経営学・食農学) 取得。現在、同大学院博士課程に在籍し、「女性新規就農者の定着」をテーマに研究に励む。2020 年、福島市松川町にて自らも就農。自身の営農実践を研究のモチベーションとし、学術的知見を現場へ還元する「研究と実践の循環」を体現している。地域活動では、学生時代から「金谷川活性化委員会 21」による耕作放棄地活用や、浅川黒沼神社の例大祭・盆踊り運営に尽力。同神社の巫女舞 (踊手) の伝承にも携わる。2026 年より「金谷川まちづくり委員会」副会長に就任。アカデミックな視点を用いた持続可能な地域活性化を模索している。

*4 月 20 日 (月) までにお申し込みください。

*後日、YouTube にて配信いたします。

編集後記

2/21～5/10 福島市の福島県立美術館で「ゴッホ展」が開催されます。情熱的な色彩と力強い筆致で知られるフィンセント・ファン・ゴッホの作品を、福島で鑑賞できる貴重な機会です。会期中は市内飲食店ではゴッホにちなんだ料理やデザート「ゴッホ飯」が登場し街中でイベントを盛り上げます。福島県政 150 周年、東日本大震災及び原発事故から 15 年の節目として開催される本企画。ゴッホといえば「ひまわり」。ひまわりといえば「ひまわりプロジェクト」。困難な人生を歩みながら創作を諦めなかったゴッホと、震災・原発事故後も風評被害に負けず復興に取り組んできた福島のあゆみはどこか重なります。県外の皆さまにもこの機会にぜひ福島を訪れて、今の福島を感じていただけたら幸いです。(A・O)